

## シュレッダーゴミからトイレトペーパーへ。 オフィス内で資源を再生する“ホワイトゴート”

2009年10月、シュレッダーゴミをその場でトイレトペーパーに再生する機械「ホワイトゴート」が登場。メディアがこぞって取り上げたこの機械、開発元「オリエンタル」は、15年もの歳月をかけてこれを完成させた。



2009年10月、第一号機納品。2009年12月のエコプロダクツ展では、早くも「シュレッダー付き」を発表。

**profile** 合資会社オリエンタル 1952年、桐生市に塗装業として設立。1959年、日本で初めてのシュレッダーを製造開始。現在も事業所用シュレッダーではトップの生産台数を誇る。2009年10月、リサイクル装置「ホワイトゴート」の販売を開始。 <http://orikankyou.com>

### 燃やすすしかなない事実にも愕然 紙ゴミの完全再利用に挑む

桐生市に本社を構え、業務用シュレッダー生産台数日本一を誇るオリエンタルでは、平成21年10月、シュレッダーゴミをトイレトペーパーに再生する機械「ホワイトゴート」の販売を開始。これは同社技術開発部長の能澤公廣氏が、15年もの歳月をかけて開発した製品です。

今から15年前、能澤氏はシュレッダーゴミがほとんど焼却処分されていることを知り愕然としました。自社のシュレッダーが生み出すのは燃やすすしかなないゴミだという事実。これを資源に再生させるのがメーカーの責務だと一念発起し、「ホワイトゴート」の開発に着手したのです。しかし、その開発は容易ではありませんでした。まず製紙業界の技術者に相談したところ、製紙工場の設備をオフィスに置ける大きさの機械に閉じ込めようという発想は、専門家にとって「常識外れ」でしかなく、本気にしてもらえませんでした。

その後、群馬大学と共同で地道な研究を続けながら、いったん開発資金の問題で頓挫。平成16年度から国や県の補助金を得ることができ、ようやく開発が軌道に乗りました。

### 素人ばかりでチーム結成 常識外れの発想が夢を叶えた

開発再開にあたり、能澤氏はヒートポンプ技術者、生物科学研究者など、あえて「紙の素人」でプロジェクトチームを結成。紙の常識にとらわれない発想でブレイクスルーを試みたのです。

そしてその狙いは成功しました。平成18年、ついに目標だった「設置面積1坪以下」の機械が完成。薬品類を一切使わず、水の補給だけで1日あたり7・2kgのシュレッダーゴミから48個のトイレトペーパーを生み出すこの機械は、「ホワイトゴート」と名付けられました。

この「ホワイトゴート」は、第3回ものづくり日本大賞の優秀賞を受賞。新聞・雑誌・テレビと、メディアが一斉に取り上げることとなり、記念すべき製品第一号は、桐生市役所に納められたのです。

最後に、能澤氏は将来の夢を語ってくれました。

「当社は、不可能を可能にする会社でありたい。だからこそ15年かけてホワイトゴートを完成させることができました。将来は、うちの製品ですべてのゴミをリサイクルできるようにするのが夢なんです」